

1997年度上半期 報告書

目次

- 4/13 個人山行 水根沢谷
- 4/20 個人山行 小川谷廊下
- 4/26～29 GW山行 北ア・奥穂南稜
- 5/2～4 GW山行 谷川岳西黒尾根
- 5/11 個人山行 富士山
- 6/7 個人山行 三ツ峠
- 6/14～15 新歓山行 大菩薩峠
- 6/21～22 学生部小川山集会
- 7/13 新歓山行 逆川
- 7/19～20 プレ夏訓練 三ツ峠
- 8/4～14 個人山行 湊沢定着
- 8/13～20 個人山行 笠ヶ岳～黒部縦走
- 8/24 個人山行 谷川岳大倉沢
- 8/26～30 個人山行 北ア・滝谷
- 8/26 個人山行 逆川
- 9/3～12 夏合宿 甲斐駒～光岳
- 9/24～25 個人山行 谷川岳一ノ倉沢

○ フリートーク

- 武蔵野の森の一戸建て
- 山岳部復帰に際して
- 言い訳とぼやきと反省
- 97年度下半期を振り返って

巻頭言

この半年の間にいろいろあったが、何とか「新葉樹 2号」を出すことができた。面倒でもフリートークを書いてくれた西井さんと大谷さん、ありがとうございます

ざいました。忙しい中、編集してくれた松田君ありがとう。非常に無関心ながらも原稿を出した立木先生ごくろうさま。つたない冊子ですが参考に使っていただけばうれしいと思う。(宗像)

山岳部に入って3か月、「新葉樹2」をつくりながら振り返ってみると、毎日忙しかったと感じる割にはあまり山には登っていないだな。(松田)

なぜ山に登るのかという問いがどのように登るのかという問いに変わったこの頃です。スズムシの鳴き声にしみじみと秋を感じるこの頃であります。(大谷)

も一書くことないじゃないか。(西井)

僕は立木たつきんきん。今、休部しちゃったんだよーん。今、ここにいないんだよーん。さてこれは誰が書いたのでしょうか。(立木)

1. 個人山行 奥多摩・水根沢谷 宗像

4/13 晴れ(記録不明)

朝、目を覚ますと部室の窓から差し込む陽光に誘われて沢に出かけた。キャンプ場の建物下から入渓する。まだまだ水は冷たい。最初のゴルジュに入ったので左の巻き道をうかうかとたどっていたが、高く巻きすぎ、かなり悪いところから沢に戻る。何かさっき巻いたとき滝あったよなー、と思いつつ、現在位置が分からないまま再び行き詰まり、また左を登っていくと林道に出てしまった。こりゃいかん、と支沢から戻ったときは、核心部は過ぎてしまった後だった。コンパス忘れたのは痛かった。わらじを捨ててある所から右の林道に出たが、もったいないのでそのまま鷹ノ巣山に登り、石尾根を下って、4時頃奥多摩駅に出た。今学期の登り初めとしてはいい運動になった。

文責・宗像

2. 個人山行 小川谷廊下 宗像、立木、古瀬 OB、湊沢 OG

4/20 曇り(記録不明)

もう4月なので泳ぐ沢もできるだろうと丹沢にやってきた。コガイ平沢から入渓し、堰堤のはしごを何回か下って小川谷に入る。最初の大岩は宗像リードで左から登ったが、そのあと2、3回トライして諦める立木と、びしょ濡れになりながらもなんとか登ろうとチャレンジする湊沢さんは上から見ていて好対照

だった。結局、1 時間以上粘ったが、あとの 3 人は巻いてしまった。つるつるの大岩にはスリングが長くたれていて楽勝。その後、宗像一人で果敢に泳いで上っていったが、他の 3 人は冷めた目でへつっていた。最初の大岩で出したほかはロープを出すこともなく、つつじが色づく廊下を快適に歩くことができた。遡行終了点に鹿の骨がころがっていたが、淵沢さんはそれを持って帰って部屋に飾るそう。よくわからん。いい沢だったが、泳ぐには早すぎた。

文責・宗像

3. ゴールデンウィーク山行 北アルプス・奥穂南稜

宗像、古田 OB、古瀬 OB

4/26 快晴

坂巻温泉 6:25～7:30 大正池 7:55～8:45 河童橋 9:25～11:45 岳沢

立木が直前で来られなくなったので、現役は宗像だけになってしまった。松本でバスが坂巻温泉までしか入らないことが判明。タクシーが安くしてくれるということなので、他の登山者と 5 人で乗り込むと、坂巻で 5 人だから安くしないとのたまう。運ちゃんの豹変ぶりに腹を立てながら歩き始める。「なんで調べとかないんだよー」と言いたげな OB2 人の無言のプレッシャーを感じながら大正池に着く。人のいない大正池で朝飯を忘れた宗像と古田さんはなぜかカステラとキュウリをほおぼる。河童橋でトリコニーを確認し、岳沢に向かう。スノーボードを抱えたパーティーとすれちがう。岳沢では水を掘り出すのは難しいと言われ、寺島さんの差し入れのメロンと、水はなくてもなぜかあるビールを飲んで昼寝をする。しあわせー。

4/27 快晴

BC 発 4:30～5:30 大滝左取り付き～7:00 稜線取り付き 7:10～9:20 トリコニー I 峰上部 9:30～12:00 南稜の頭 12:15～13:30 吊り尾根最低コル 13:40～14:40 前穂 15:00～17:10BC

岳沢にテントはほとんど無く、今日登る人も見当たらない。雪がみずのように落ちる大滝左のルンゼから取り付く。先に一人で登っていった古田さんがロープ出したほうがいい、と言うので、古瀬さんとスタックで登って行く。その後はダブルアックスをしながら雪壁をスタックで登っていくと、シングルアックスをしながらノーザイルで先に登っていた古田さんが休憩しながら

待っているという情けない状態がしばらく続いた。右にルートを取り、稜線につき、ロープを外す。稜線から右にルートを取るところからアンザイレンし、再び稜線上に出てトリコニーの岩場に着く。それほど難しくはないが、一部ミックスになっているところにルートを取ると悪い。その後、ナイフリッジが出てきて緊張する。時間短縮のためロープを外したが、南稜の頭の雪壁下は悪かった。南稜の頭から奥穂はすぐそこだが、古田さんは今日中に下山するので急ぐというし、古瀬さんは積雪期の奥穂には行ったことあるしな一、というし、結局行きそびれた。古田さんは一人でトレースのない吊り尾根を突き進み、我々が最低コルに来たときはもう前穂の頂に立っていた。前穂にはピッケルを持っていないお兄さんが登って来ていた。前穂から慎重にスタックで明神沢を下り、尻セードで岳沢に下りた。

4/28 雨 雨のため沈

4/29 快晴

6:30 起床 8:30 発～9:45 河童橋

午前 3 時頃まで雨が降り続いたため泣く泣く下山。バスが入るようになっていた上高地はやっぱり人が多かった。

文責・宗像

4. ゴールデンウィーク山行《谷川岳西黒尾根》

立木 5/2～5/4

5/2 (金)

上野から越後湯沢行き鈍行で出発。途中、乗ってきたおじさんが我々の装備を見て親しげに話しかけてきた。おじさんは若い頃はよく谷川へ通っていたらしく「土合で降りるのかい？」とか「山をやるやつで悪い奴はいないよ」とか言っていた。北アルプスの話とかした挙げ句、なぜか握手までして別れた。2:30 土合着。400 段の階段を上り改札口にシュラフをひろげる。

5/3 (土) 曇り

土合駅を出て国道沿いに行き、遭難慰霊碑を過ぎると天神平スキー場につく。道沿いは春スキーを楽しむスキーヤーの車でいっぱい。西黒尾根の取り付け

は登山指導所のすぐ先である。雪は全くない。送電線の鉄塔の下でスパッツ等をつける。向かいに大きくゆったりと構える白毛門には雲がかかっており雪がついているのかどうか判然としない。ラクダのコルも問題なく通過。ガスがかかっており、残念ながら一の倉沢は拝めなかったが、東尾根が鋭く切り立っているのがよく見える。左を見ると西黒沢をはさんで天神尾根がよく見え、スキー場のスキーヤーが無数の点となって動いている。ザンゲ岩周辺はずっと雪渓になっており、結構傾斜もきつい。慎重にキックステップで行く。すると、やがて肩の広場の一角に出る。11:30 頃トマの耳に立つもガスで展望は全くなし。天候がどんどん悪化していくので早々に肩の小屋まで下りテントを張る。後は、うだうだして過ごす。ちなみに谷川岳山頂から携帯電話で横浜になんとかつながることがわかった（10 秒程）。

5/4（日）雨のち晴

雨が降っているが天候が回復することを期待して出発する。稜線上は夏道がでていて問題ないが東側には亀裂の入った巨大な雪庇が張り出している。茂倉岳で蓬峠へ続く道と分かれ、茂倉尾根を下る。矢場の頭あたりで晴れてくる。関越道がよく見える。なんだか惨めな気持ち。泥まみれになって土樽に着く。水上で温泉に入ろうと思うも入れそうところがなかなか見つからず 2 時間ぐらいさまよう。結局入れずに帰る。やれやれ。（文責・立木）

5. 個人山行《富士山》

宗像、太田（上智）、榎並（慶応）、蛭田（早稲田）

5/11 晴れ 記録不明

マッキンレーの連中が高所トレーニングで富士山に行くというので、まだ頂上に行ったことのない僕もいっしょに行った。五合目までタクシー入らず、林道途中で降ろされた。初めて見る富士山の頂上は、やっぱり見る山だよ、と思わせるのに十分だった。雪は山頂以外はクラストしていない。九合目辺りから頭が痛くなり始め、それからずっと痛かったので、僕は高所に弱いと思った。山頂でビバークする太田と蛭田と別れ、榎並と下山。（文責・宗像）

6. 個人山行《三ツ峠》

宗像、立木

6/7 晴れ

大学は小平祭であるが、我々は三ツ峠に来る。T字クラックは立木がリードする。意外とあっさり行ける。次は大根おろし左の、紅葉おろしを登る。宗像がリードする。立木はどうしてもハングを越えられず、しょうがないので宗像が懸垂で回収しながら降りてくる。あと数本登って初日は終わり。

6/8 曇り

最初は草溝ルート。ダブルロープのランニングの通し方が悪く、反省する。その後、少し休んでから左に移って亀ルートに取り付く。まずは立木がリードする。ホールドに毛虫がついていたりして最悪。核心部の八寸バンドは宗像がリードする。八寸バンドは最初は余裕と思ったが最後が核心。ホールドがなく、かなり厳しい。広いテラスに出て、懸垂して降りる。次は中央カンテを登る。かなりの初心者パーティが先行し前をふさいでしまい、かなり待たされる。最後は観音ルートに登る。宗像さんは、その上のチムニーも登る。そして終わり。暗くなって三ツ峠駅に着く。 (文責・立木)

7. 新歓山行《大菩薩峠》

宗像、淵沢、立木、野崎（以上、一橋）、小林、田所、森（以上、駒沢）

6/14、15 曇り時々晴

立木は野崎が土曜日から入れないので、彼につきあうため日曜日に淵沢さんと3人で朝国立を出発する。前夜は野崎と連絡がとれないのでわざわざ小平まで出向く。奴は飲みで0時頃帰ってきて、自分は結局小平で夜を明かす。塩山で降り、7時過ぎにロッジ長兵衛につく。宗像さんと駒澤大のメンバーは、昨夜は宴会だったようだ。ぼちぼち出発する。大菩薩峠まで1ピッチ。嶺まで行くと展望はないが、稜線にあがったところは開けていて気持ちいい。富士山は裾野しか見えなかったが、南アや甲府市街がよく見える。大菩薩峠は人がいっぱい。喧噪の中で時を忘れて、しばし、ぼーっとする。丹波に向かって降りる。うん

ざりするほど長い下りだ。みんなイヤになっているようで黙々と下る。ようやく丹波について、バスで奥多摩駅に向かう。1年生諸君に山の魅力が十分に伝わったか、はなはだ疑問ではあったが、悲観的な感想も聞かれなかったので、まあ良かったのかなとも思った。（文責・立木）

個人山行《日本山岳会学生部小川山集会》

宗像

6/21 晴れ時々曇り

学生部のルームに初めて行ったときに小川山集会の責任者に任命され、やくざな組織やなあ、と思ったが、お粗末ながら開催にこぎつけた。直前で立木が親と尾瀬に行く約束したんですよー、とのたまうので、いつものことかと思ってうちの部からは一人で参加した。ガマスラブを登った後、マラ岩に行く予定だったが、メガネを取りに戻って、渡渉はどこだったかなー、とぼんやり歩いていると、千葉大の奥山さん一行と会い、さらに早稲田の浜谷さんらと会い、なぜか藪漕ぎをして父岩に着いた。登った主なルート：小川山ストーリー、タジアンⅡ

6/22 曇り

4年生の皆さんは昨日の夜、かなり暴れたらしいが、一人しかいない3年生の僕は慶応のテントでとっとと寝てしまった。

一人で来たので、他の連中の行くところしか行けず、再び父岩に来てしまった。2年が1年の面倒を見ているのでぼーっとしていると、拓殖の鈴木さんがやってきて、ビレイをしてもらい、5・10bがオンサイトできた。まったくなかなかうまくならない。そのあとも、兄岩で鈴木さんにビレイしてもらった。ありがとうございました。

他の大学の連中と登るのはなかなかおもしろかった。来年は関西の大学も呼んでもっと盛り上げましょう。

登ったルート：タジアンⅡ、岩壁の父、モラリスト、ソーセージ、三日月のピン・クリップ

（文責・宗像）

8. プレ夏訓練《三ツ峠》

宗像（3年）、大谷（4年）、松田（3年）

7/19 晴れ

剣での合宿にそなえて、7/12～13に予定していた岩登りは、雨のため中止となり、今日から3日間行うことになった。天気は良好である。

一般ルート右（Ⅲ+）を数回ずつ登攀した後、十字クラック（Ⅳ）につなげて、天狗の踊り場へ。宗像がトップ、大谷と松田がセカンドの順で、「シャクトリムシ」のごとく登る。懸垂下降で降りた後、地蔵ルート左（Ⅴ-）にチャレンジ。宗像2回で成功。松田3回目のトライの末クリア。大谷は3回のトライに失敗し（3回目は惜しかった）、腕がパンプしたためあきらめた。

7/20 晴れ

今日も晴れ。飽きるほど登攀可能だろう。一般ルート中央（Ⅳ+）を、荷を背負いながら数回の登り、中央フェースへ移動。中央カンテ（Ⅳ+）に取り付く。

「シャクトリムシ」で難なく終了。右フェースに移動し、大谷のトップで権兵衛チムニー（Ⅵ）を登攀。大根おろし（Ⅴ）で遊んだ後、登山道に下降した。その後、アパッチハングで自己脱出の練習。このときに、大谷が滑落事故を起こした。詳しくは事故報告に記載します。

（文責・大谷）

コラム《フリートーク》

「武蔵野の森の一戸建」

まわりを緑に囲まれた「武蔵野の森の一戸建」ここ、山岳部の部室は今も健在である。数々の住人を迎え、あるときは凍てつく北アルプスに、またあるときはまだ見ぬ海外の高峰へと多くの部員を送り出してきたこの廃屋に近い部室に、僕は新たな住人としてやってきた。とはいえ、僕はここにまえから居着いている住人のテリトリーに侵入したわけでもある。というわけで、毎日が彼らとの闘争と共存の営みとなっている。

・ 「ゴキブリファミリー」…夜は無人と化し、おまけにレーションの残りやら

をそのままにしているので、えさには事欠かないこの部室で着々と子孫を増やし続けた。彼らは体内時計をもっている所以で夜の 11 時きっかりに動き出す。この時間を過ぎると部室ではそこらじゅうを彼らが跋扈するこの世のものとは思えない光景が繰り広げられる。長らく部員は彼らの存在を黙認してきたが、ついに殲滅作戦を決行。ゴキブリホイホイをセットし、一晩で 8 匹を捕獲するという信じがたい記録を残し、今のところ彼らの活動は収束中。

- ・ 「蚊の襲来」…夏は周囲が藪となるこの部室では、蚊取り線香なしには 1 分たりともじっとしていることはできない。今のところ彼らに対して打つ手立てではなく、蚊取り線香が切れると悲劇となる。
- ・ 「ネコのフチザワタカコ」…お向かいの松石教授がえさをやっているため、このあたりに居着いている彼女（彼？）は、床下から部室の中にもやってくる。名前のせいか無関心、不干涉の関係が続いてきたが、このところ、部室の布団に勝手に寝ていたり、おいてあったレーションを荒らしたりと悪行を重ねつつあり、急速に関係は冷え込みつつある。
- ・ 「のびほうだいの笹」…部室を居とするものは動物ばかりではない。倉庫の抜けた床下から以前から生えていた笹は、この春一挙に倍に増え、青々と茂っている。取り立てて害もなく、まあ風情があってよいか、とそのまま伸び放題にしているが、いずれ、倉庫が笹原と化す日近かろう。
- ・ 「流しのヒキガエル」…なぜか部室の周りにはヒキガエルが多く、自転車で来るときには、まさにひきそうになるのだが、以前、流しの下の中へ泳ぎ回っていたカエルは、僕の改修工事によってすみかを失ったが、懐かしいのか、部室のドアを開けるとカエルが座ってこっちを見ていることがままある。

まだまだ、ヤモリやクモなどの益虫や、部室のなかで鳴くコオロギなどなど、いろいろな生き物がいる。結論は、ここは東京ではないのである。

まあ、こんないろんなものがある部室を持ったことを、幸運に思うのだが、さすがに、カエルや笹にも暮らしやすさだけあって、この部室もめっきりボロくなった。雨漏りこそしないものの、ガラスは何枚も割れ、なぜか銀マットで補修しているし、床は傾き、おまけに倉庫の床は完全に抜けている。兼松講堂を文化財にするよりは、この部室を文化財にしろ、とも考えるが、それ以前に、これが壊れちゃう方が先かなー、とも思う。そろそろ、ここも建て替える時期なのだろう。学務課の言う話では、いずれここには水道の施設

ができる予定があるので、いつかは立ち退かないといけないそう。いずれにせよ、大切にしていきたいと思う。 宗像

山岳部復帰に際して

大谷公重

就職活動を終え、兼松（＝ボルダリング）で宗像と遊ぶ機会があり、復帰を勧められたのをきっかけに、この六月からふたたび山岳部に所属することになりました。この場を借りて、退部時と現在の心理的・物理的情况を記したいと思います。

○ 退部まで

一昨年十月に退部届けを提出し、話し合いの後に、正式な退部に至りました。退部届には、山から得られる効用と費用がミスマッチであり、かつ登山という行為が自分にとってワン・オブ・ゼムのワンに過ぎないという、二つを退部の理由として挙げました。この二つの理由は今ふりかえっても適切なものです。しかしここでは、そのときの心境をもっと掘り下げて概観したいと思います。

そもそも浪人時に山関係の書籍にエラク感銘を受けたのが、入部の動機でした。特に二浪していたこともあり、現時点での力量を斟酌せず、四年までには8000メートル級の処女峰に登ってやろうではないかなどと、野望だけは大きくふくらんでいました。この野望が登山へのモチベーションだったとすると、山岳部の性質を考慮したときに、そもそも入部したこと自体が選択の誤りだったともいえます。確かに、夏・冬の北アルプスなどなど、山に入ること自体は実に楽しかったし、部の人間との関係もおもしろかった。しかし、心的事実として、登山はこうあらねばならないというわたしの前提と、実際に部において行っている登山との乖離が、一年の夏合宿から、二律背反として常につきまとして離れませんでした。

しかし、登山を続けるための打開策として二つの方向性があったことを指摘することもできます。第一には、宗像のように山岳連の学生部にでも出て行って、そこで欲求を充足させつつ、部のレベルアップの音頭をとること。

第二には、退部した上で、他の山岳会に所属すること。しかし、当時のわたしにとっては、いずれもピタッとくる選択肢ではありませんでした。真相は、パワーがなかっただけなのかもしれません。したがって、退部する時期はもっと早くて然るべきだったと思います。ですが、冬山・山スキー・岩など、とりあえずたいの登山形態を経験し、自分の登山への心理的適性を見定めたいと判断することにしました。結局、それらの行為に自分のカネと時間さらにはエネルギーをこれ以上費やしたくないという気持ちが勝って退部することとしたわけです。

さらに、二年の春からは自分がリーダーになるという条件も大きかったと感じています。パーティーに対して、リーダーは法的にも責任をとらなければならない。とすると、積極的に登山をすることができるのならともかく、悶々とした情態でリーダーになるとしたならば、でかい事故でも起こしてしまいそうだと危機感を抱きました。二年の十月という時期での退部は、この点からも必然だったと思っています。

○ ワン・オブ・ゼムで宜かろう

退部届に記した登山をするにあたっての二つのマイナス要因は、現時点では当時における効力を失っています。カネは、三年のときのバイトの貯蓄出少し楽に（最近、また財政危機なのですが…）になりましたし、また自分の属性のうちのひとつとして登山を把握し、ワン・オブ・ゼムのワンでも宜わないと思うようになりました。復部を決定した直接の理由は、体力維持の重要性をブランク中に確認したというごく単純なものです。しかし、体力保持のために登山を選択する内的必然性は、好悪の情を越えた次元で、一年半の登山経験が身にしみついていることによるのだと感じています。

最後となりましたが、十分な説明をできず退部した不徳を、当時の部員であった、古瀬さん・淵沢さん・西井・宗像にお詫び申し上げます。当時いっしょに登った山々が、いま山岳部員として山に登るときの、わたしのモチベーションの源泉です。この場をかりて感謝の意を表させていただきます。かしこ (!?)

追記 先の仮報告のとおり、7/21に三つ峠でわたしは滑落事故を起こしました。登山をワンと認知することと、慎重さを欠くことが同義であってはな

りません。この経験を基礎に、安全に登山するための準備と心構えとを新たに期す所存です。

10. 個人山行《涸沢定着》

宗像、松田、立木、引地 OB

8/4 晴れ

7:00 上高地発 10:15 横尾 15:30 涸沢

平地ではやたら歩くのが速い松田は、始めのうちはいいペースであった。しかし横尾を過ぎた辺りからバテはじめ、おばちゃん達に抜かれ続ける。宗像の「いいテン場全部取られちゃうなー」という言葉が、胸に突き刺さる。

8/5 雨

雨のため沈。

〔蝶ヶ岳往復〕

8/6 曇り

4:00 起床 5:10 発 6:25 横尾 9:10 蝶ヶ岳 11:35 横尾 14:30 涸沢

靴ずれの痛みを耐えて宗像の後を必死に追いかける松田の姿は、見る者の涙を誘う。山頂へは予定より早く着いたが、寒さに耐えられずすぐに下山する。

8/7 晴れのち雨

5:00 起床 6:00 発 7:05 横尾 9:05 赤沢岩小屋 12:30 槍ヶ岳 15:30 天狗平分岐

午後から天気が崩れるという予報なので、切戸越えは明日にまわし、下を通っていく。槍山頂は例のごとく人口密度が高い。槍沢の河原にツエルトを張っていると大雨が降りだし、翌日まで続く。深夜、寒さに耐えられずに火を焚こうとするが、ライター五本全て火が付かない。止むを得ず水中生活を続ける。

8/8 雨

5:00 起床 6:00 発 10:00 横尾 14:00 B C

朝から雨なので切戸越えを断念する。火が付かないので朝食は非常食を食べる。

〔雪訓〕

8/9 曇り

6:00 起床 7:00～15:00 雪訓

雪上歩行、滑落停止、ザイルワークを練習する。途中、巨大な落石が宙を舞ってきたので一時中断する。

〔前穂北尾根〕

8/12 晴れ

4:00 起床 5:30 発 6:40 5・6の科尔 9:20 前穂 11:00 奥穂 12:15 B C

ゲレンデしか経験のない松田は、浮石に神経を使う。4峰登りで石を落とし立木の腹に直撃するが、怪我はなく先へ進む。前穂からの展望はとても良かった。

8/13 曇り

5:00 起床 7:00 発 8:30 屏風の頭 12:45 徳沢 14:40 小梨平

松田1ピッチ目からいきなりバテる。立木が楽しんでいたお花畑の光景も松田の目には入らない。徳沢からは立木の体調が悪化し、フラフラしている。小梨平到着後、二人の体調を考慮し、明日は焼岳往復へと予定変更する。

8/14 晴れ

5:00 起床 5:50 発 6:25 登山口 9:15 焼岳 12:00 小梨平

山頂までの道は良く整備されている。山頂付近はいたる所から噴煙が噴き出しており宇宙刑事ギャバンの魔空空間である。上高地は人がごった返しており、バスを3時間待たされる。

(文責・松田)

11. 逆川

宗像 (C L)、立木 (S L)、西井、松田、天達

7/13 晴れ

逆川の目的は、入部しそうな2人に山岳部の雰囲気を見せる、立木にサブリーダーの経験をつませるといった程度のものであったのだが、天達は出合に入った直後から、“ええ！こんな所登るんですか？”というせりふを連発していた。1級とはいえ今まで岩も沢も山もしたことがない人間には結構恐いらしい。しかし、後の方ではあきらめて黙々と登っていた。無口な松田はやは

り黙々としかし嬉々として登る。ザイルは最初の2段11メートルの滝と林道の下10メートルの滝で使う。2段11メートルの方では先行した立木の声が聞こえず若干手間取った。晴天の川乗山で休憩の後、鳩ノ巣駅まで降りみんなでビールを飲む。

12. 個人山行《笠ヶ岳ー黒部縦走》

宗像

8/13 曇り

4:00 起床 6:30 涸沢発 8:20 白出の科尔 10:30 徒渉点 10:45 11:20 白出小屋 12:40 新穂高温泉

昨日の晩、風邪気味なのに短パンでビール飲んで風邪こじらせて、今朝、「下りたいんですけど」とかおっしゃる立木先生はうっちゃいといてと。笠ー五郎沢ー祖父沢ー東沢ー下の廊下ー北方稜線ー剣という盛りだくさんの縦走計画を立てて出発。

西穂から下りる予定だったので白出の科尔からの下りはよく知らなかったが、結構通る人はいた。ガレガレの所から川沿いの所までくると、切り通しになっていて意外だった。昼頃新穂高に着いてふろに入った。

8/14 曇り

3:30 起床 4:45 発 5:50 笠新道登山口 10:35 杓子平 2520m 10:45 11:35 稜線上 12:00 13:35 笠ヶ岳山荘

まだ薄暗いうちに出発。快調に歩き始めたが、10日分の食糧と、ロープ、バイルと無駄なものが多いザックは重く、だんだん足が重くなり、単独行のおばちゃんと抜きつぬかれつのデッドヒートを繰り広げてしまった。ひたすら上るだけの笠新道の後半ではバテバテになり、笠は往復して秩父平くらいまで行く予定だったが、笠で泊まることにする。僕の場合、ばてると急速に歩行能力が無くなるので、ばてばてになってテン場の50m手前で休憩してしまった。空身で頂上を往復し、くたくたになって寝る。

8/15 曇り

4:00 起床 5:20 発 6:00 笠新道分岐 6:05 7:05 秩父平 7:15 8:10 大ノマ乗越 8:20 10:00 双六小屋 10:20 13:10 黒部川徒渉点 13:

20 15:25 雲の平

今日は昨日のおばちゃんに大差をつけ、快適な稜線散歩。双六小屋の手前で、女の人がうずくまって泣いて男の人を責めていた。山のうえで何やっているんだろう。今日は五郎沢を下ってしまう予定だったが、今日中には無理だし、はしょって雲の平に行くことにした。黒部川からの最後の上りはしんどかった。

8/16 晴れ

4:00 起床 5:30 発 6:20 祖父岳 6:35 7:00 岩苔乗越へ（ワリモ岳往復）へ 7:30 ワリモ岳分岐 7:40 8:25 水晶小屋 8:30 8:55 水晶岳 9:35 10:10 東沢乗越 10:20 15:10 一ノ沢出合上 17:30 発 19:30 奥黒部ヒュッテ

西井さんから借りた時計は時々止まる。天気よく、祖父岳の頂上では槍穂、笠とすばらしい眺めだった。鷲羽岳まで行こうと荷物を置いて出発したが、ワリモ岳まで来て、まだ遠いやん、とか思ってやめてしまった。水晶の頂上も人が多く、百名山じゃなければこんなにいるよ、と思ってしまった。東沢乗越でグリーンパトロールの人達をやり過ごし、沢に入る。快晴のなかの沢下りは最高。技術的にはまったく問題ないのでどんどん下ってしまう。でも、まったく変化がないので飽きてしまった。奥黒部ヒュッテまで 30 分もあれば着くだろうと思った所でビバークを決め、たき火で夕飯を作って食べてしまったところで、上流からおっちゃんが一人下りてきた。この沢雨降ったらこわいねー、とかとうとうと話すので、一緒に下りることにする。すぐ着くだろうと思っていたのに、右岸の巻道は水害で荒れてしまったらしく、藪を漕いで電気をつけてやっとのことで奥黒部ヒュッテに着く。今夜はおっちゃん（藤戸さん）のテントに泊めてもらう。

8/17 晴れ

6:40 発 8:15 平の渡し場 10:40 平の小屋 12:55 ロッジくろよん
水平歩道というので運動靴をもって来たのだが、実際は梯子が連続し、うんざりする。今日も藤戸さんにビールをおごってもらい、ロッジくろよんで別れた。どうもいろいろお世話になりました。

8/18 晴れのち曇り

4:20 起床 5:30 発 6:25 黒部ダム下 6:35 14:00 真砂沢
昨日小屋の人に聞くと下の廊下は崩壊が始まっているというので、ヒュッテ

真砂に直接行くことにする。内蔵助平への道は荒れていてまったく歩きにくい。時計がまたしても止まるので、時間が分からないまま真砂沢につく。真砂に残っているパーティーも少なく、知っているのは千葉大の連中だけだった。

8/19 晴れ

3:10起床 4:30発 8:15長次郎のコル(剣往復) 8:50 9:40三の窓
9:50 11:00小窓 11:10 11:55池ノ平小屋 12:20 13:30二股 13:45 14:25真砂沢

僕は剣はあまりなじみがないので、北方稜線をうろちょろすることにした。長次郎谷は上のほうが割れていて左のほうを巻くのに少してこずった。長次郎の頭を右から巻き、ガレガレの所を下って三の窓に下り立つ。チンネや小窓の王を確認しながら進む。小窓から雪溪を下りトラバースして池ノ平に着く。意外と早く着いたので後はだらだらと真砂に戻った。

8/20 曇り

5:00起床 6:40発 7:30源次郎末端 7:40 9:35剣沢 9:50 10:30御前の小屋 10:30 11:10雷鳥平 11:20 11:55室堂

めっきり寂しくなっている真砂を後にする。平蔵谷の出合で合掌したあと、観光客に揉まれながら室堂に下り着き。僕の一人の山旅は終わった。

ケーブルカーの乗り場で早稲田の蛭田に偶然会う。聞くと法政の木島が小窓で怪我をしたらしく、これから見舞いに行くというので一緒に行った。今年雨が多かったせいか、事故も多かったらしい。そのあと金沢の浜谷さんの家に押しかけ一晩お世話になったあと、翌日ゆっくりと東京に帰った。

(文責・宗像)

13. 個人山行(沢)《谷川湯桧曾川大倉沢》

宗像、古瀬 OB

8/24 晴れ

4:55土合駅発 6:45入溪 7:45十字峽 8:45 40m滝手前 8:55 12:00稜線 12:20朝日岳 12:45 16:00土合駅

久しぶりに沢に行こうと思い、古瀬さんに声をかけ、とりあえず出発して電車の中で大倉沢に行くことに決めた。

我々のほかには2、3パーティー入渓している。天気よく、水も少なく快適に歩く。十字峡から水量さらに減る。ちゃきちゃきと登り、40m滝は宗像トップで右から取り付く。ピンもあり、難しくはない。後は、小滝がいくつか出てくるが、雪渓もなく直登し、水も少なくなってくる。最後の二股は左が水がなくなっているために右に入ったが、上部は藪となり、左が正解だったようだ。あっさりと終わってしまい、朝日岳でぼんやりした後、ゆっくり下山。

雪渓なく簡単で、天気もよく十分楽しむことができた。

(文責・宗像)

14. 個人山行《北アルプス・滝谷》

宗像、太田（上智）

8/26 曇り

6:40 上高地発 9:15 横尾 9:30 12:30 潤沢小屋 12:45 14:55 北穂南稜 BC

北穂南稜に取り付く前に、この間真砂沢で会ったばかりの千葉大の連中が縦走してきたのに出くわす。その間僕は東京でぼんやりしていたので、なんか変な気分だ。テン場には結構他にテントを張っていた。

8/27 晴れのち曇り [第四尾根主稜ーツルム正面壁]

4:00 起床 7:50 スノーコル 13:00 ツルムのコル 13:50 縦走路

朝のうち霧深く、また滝谷からの吹き上げも強いので、北穂小屋で待機しているときに小屋の横でブロッケン現象を見た。C沢の下りは聞いた通りに悪い。途中懸垂も入れて、スノーコルに着く。太田のリードで取り付き3P、水平リッジをコンテで下降点へ。懸垂でガリーを下降し、休憩。取り付きで太田は右、僕は左がルートではないかと言ったが、結局、僕のリードで右に取り付く。A1入っているわりにはフリーで登れるやん、とっていたら、やっぱり間違ってた。ピトンと赤いスリングを残置して、懸垂で取り付きに戻る。気を取り直して左を登り、ハング下でハンギングビレー、ピトンおとすもの一名とトポ落とすもの一名有り。右岩稜に出たところはいいいピンがとりにくいため、そのまま登ろうとしたが、トポないのでクライムダウンで戻

って、あやしいアンカーでビレー。その後は問題なく、ツルムのコルに懸垂。
Dカンテは僕リードでフリーで抜けた。いろいろ有ったわりには、全体的に
印象の薄いルートだった。

8/28 晴れ〔第1尾根ノーマルルート→ドーム西壁雲表ルート〕

5:00起床 7:00トラバースバンド取り付け 8:00第1尾根取り付け 11:
00北穂山頂 11:30 12:30雲表ルート取り付け 14:30ドーム頂上

分かりにくいトラバースバンド取り付けから1P出し、懸垂をしてさらに1P
でT4へ。斜上バンドは2P目左に行き過ぎたらしく、次のピッチで右に戻
った。T3下の核心部はフリーで突破。ピナクル手前は少し細かい。頂上に
着いた時点でまだ時間が早いので、そのままドームに向かう。

ドームへのトラバースは早く入り過ぎたらしく、石を落とすと僕らの後にC
沢に入ってきたサングラスをかけた人にどなられてしまった。1P目、太田
リードで取り付く。高度感もあり、上部は所々レイバックが入り快適なフリ
ー。Aフェース1P目は右にルートを取るが、上部は細かく、ピンも少ない。
次のピッチは絶妙のトラバース(だと思った)の後、右のクラックに入り、
プロテクションをとりまくってフリーで登ったのでロープの流れが悪くな
った。今日はオールフリーで、特に雲表ルートは快適で満足できた。

8/29 晴れ〔第2尾根P2フランケ早大ルート→ドーム北壁左ルート・北
西カンテ〕

5:00起床 8:10発 8:10早大ルート取り付け 10:10P2 10:50P1
12:00左ルート取り付け 13:10ドームの頭 13:30北西カンテ取り付け
14:50ドームの頭

北穂小屋の登攀ノートを見ると、昨日の人に「ヘタクソ」と書かれていた。
石落としたのは悪いけど大人気ないよなー。

T4から2P出して取り付く。重いからおおきめのキャメロットはBCに置い
てきたが、有れば1P目のクラックに重宝したろう。全体的に快適なクラッ
クが続き、おもしろかった。水野クラックも結構しぶくて気が抜けない。
今日も早いのでドームにエイドの練習に行く。北壁は日が当たらず、北西
カンテはアブミが舞うくらい風が強く、ビレーしているとむちゃくちゃ寒か
った。エイドの実戦経験が少ないのでまあまあ練習になった。一回登って、
同じところに下りてきてまた登るのはちょっと空しい。

夕方、水を買いに小屋に行くと、ノートにさらに「石ばかり落とすな!! あ

やまれ」と書かれていた。大人気ないを通り越して人格疑っちゃうよ。先行パーティーがいるのにヘルメットもせずにC沢入ってくるほうが自殺行為じゃないの、とか開き直りたくなる。もっとも石落としたのは事実だけど、文句があるなら名前ぐらい入れとけ、とか思ってしまった。

8/30 晴れ

5:00起床 7:30発 8:30 涸沢小屋 11:00横尾 13:40上高地
ゆっくり下山。

(文責・宗像)

15. 個人山行《逆川》

松田兄弟

8/26 晴れ 記録不明

兄を誘って沢へ行く。麗しき兄弟愛 = (注 ハートマーク) 快調なペースで進み大岩手前の5mの滝に着く。前回は巻いた所だが挑戦してみる。何度か失敗したが、なぜか二人とも意地になって、びしょ濡れになりながら、最後には成功する。その後は順調に進み頂上に登ってゆっくり休む。下山の途中、黒い鹿を発見。鹿のように一直線に林を駆け下りたいと思いながら林道を下る。

(文責・松田)

16. 夏合宿《甲斐駒ヶ岳〜光岳》

CL宗像(3年)、SL西井(3年)、大谷(4年)、松田(3年)

9/3 晴れのち霧

10:00北沢峠 10:40仙水峠 12:00駒津峰 13:15甲斐駒 14:40駒津峰 16:00北沢長衛小屋

前日は甲府駅で寝る。6:00発のバスに乗り、広河原で乗り換え、北沢峠に到着。テントを張り、軽くなった体で甲斐駒に向かう。スタート時に先頭の西井が猛ダッシュをかけるが、20分で落ちつく。仙水峠から駒津峰までの急登ではさらに落ちつき、甲斐駒直下からの登りでその落ちつき方は最高潮に達した。駒津峰到着直前から霧が出て、甲斐駒頂上でも周りの光景はおがめなかった。頂上で45分の休憩。下り前半は、西井がスーパーマリオのよう

に走っていた。中盤ペースが落ちつくものの、ラスト10分で三たび走る。松田は、ひたすら西井の背後で寡黙に歩いて（あるいは走って）いた。

9/4 晴れのち曇り

4:00 起床 5:30 発 7:50 大滝頭 10:40 仙丈ヶ岳 14:00 高望池 17:00 両俣小屋

昨日のペースの乱調も今日は持続的に安定。南アの広葉樹と赤土が、われわれの出発をしっかりとつつみこんでくれた。直射日光で大滝頭の急登を快適に登る。ペースが遅れているため、仙丈では10分だけの休憩。蓼ノ平という区域には、本当に蓼（ふき）が密生していたので笑えた。くたくたになって高望池に着。水はない。高望池と呼称の理解に苦しむ。（水を）高望みする、とでも解釈すべきか。横川岳から両俣小屋までは450メートルの下りでへとへとになる。小屋では、南アルプス林道の方からやってきたのであろうご夫妻にいただいたプチトマトが新鮮なあまさでうれしかった。三毛猫がいた。

9/5 晴れ

4:00 起床 5:25 発 12:05 北岳頂上 14:15 北岳山荘

両俣小屋から肩まで600メートル、さらにそこから800メートルとひたすら登る。その間、トマト夫妻とデッドヒートをくりひろげた。夏のような日差しと暑さが快い。肩以降、西井がバテて、大谷が先頭を2ピッチ。頂上着。エアリアマップとにらめっこしながら協議した結果、熊ノ平までの予定を変更して北岳山荘で停まることに決定。

山頂での会話

（その1）大谷「初日からずっとドトールのアイスカフェラテのみでー、って思って登ってたわー」松田「アイスカフェラテですよねー」

（その2）皆で今日・昨日の行程が厳しかったことを話している。

大谷「今日、広河原におりんー？」

大谷、同様の内容の発言を数度くりかえす。

宗像「大谷さーん、そういうこと言うのやめてくださいよー」

閑話休題。頂上と山荘では、照りつける太陽が気持ちのよい休憩を演出してくれた。水1ℓ 100円。

9/6 霧時々雨

4:00 起床 5:10 出発 6:45 間ノ岳 8:15 熊ノ平 11:50 北荒川小屋

14：40 塩見岳 16：00 塩見小屋

熊ノ平にて。(1)「塩見小屋では、テントによる幕営を禁止します。テントで幕営の方は北荒川小屋にて願います」という旨の看板があった。熊ノ平の小屋人によれば、ごみの散らかしがひどいためということらしい。(2) 大谷のキスリングの横の留め金が壊れる。小屋の兄ちゃんの修理に救われる。ありがとう、ひげの兄ちゃん。

塩見岳の山頂は、ツアーらしきご年配に制圧されていた。

いよいよ塩見小屋。小屋人は興奮した様子で、テン場周辺（十数張り可能・狭い）の放尿による水場（下り 10 分程度）の汚染のこと、環境庁がどうのこうの（不覚にも聞き返さなかったので趣旨は分からなかった）、こうした一連の事態に塩見小屋の小屋主が怒っていること、登山人口の絶対的増加という現状において環境に配慮する「キャンパー」の新しいありかた、等々を講談師のように話した。一方的にまくしたててくるので、何がテント幕営禁止の理由なのか判別しかねる。ただ「われわれが今日ここで幕営できるのか」という質問には、「今年から実施した措置なので」OK とのこと。しかし「来年からは全面禁止」だそうだ。いずれにしろ、ホッとしてテントを張りだした。とそのとき、小屋人が登場。「着くとすぐにテントを張り出すキャンパーたちがいるんだけど……受付を済ませて、場所を指定されてから張る。これ、礼儀」（慣れた調子。たぶんこの夏何度もこの台詞を放ったにちがいない）とおっしゃる。

てなわけで、宗像君、ご立腹（『岳人』に投稿してやる）といていた。

〔考察 「礼儀」について〕

われわれの他にテント幕営者がいないことを考慮しても、確かに狭いテン場であり、この点についての非は認めなければならない。しかし以上のことを「礼儀」と呼ぶ道理はない。むしろ、塩見山荘独自の「ルール」と呼ぶべきである。今回の山行の幕営では、9月という要因もあろうが、塩見山荘以外で以上のような趣旨において注意を促されたことはなかった。（ただし、荒川小屋にはテン場らしき空き地脇の石に番号が書いてあったので、そこでは指定制なのだろう）。北ア・南ア等、人気の登山スポットのテン場では、たいてい場合は空いたところに好きなようにテントを張るのが経験的には一般的である。とすると、塩見小屋のケースは特殊であり、やはり一定区域内での「ルール」というのが適合的だ。「礼儀」とは、「相手に対して失礼にな

らないような態度やふるまい」(三省堂国語辞典第3版)である。塩見小屋の事情を知らなかったため、塩見小屋という特殊な区画では、一般的なふるまいが「礼儀」に適わなかったとはいえよう。しかし、「テントの設営は受付のあとに願います」といった看板も出さず、非「礼儀」的な行為をする「キャンパー」に説法にちかい発言をするのはいかがなものか。わたしには、むしろかれの方が「キャンパー」に対しての礼儀を欠いているように思える。この些細と思われる一言は、その他の発言でも感じられた。小屋区域内の常識と一般的常識との整理がされていない、小屋人の思考を象徴しているものと把握できるのではなからうか。 終わり

ジャンケンの結果、往復45分の水汲みには松田が選定された。

9/7 曇り時々雨

4:00起床 5:15発 8:45烏帽子岳 13:05高山裏避難小屋

昨日からエアリアマップの時間より早く歩けている。起伏が少なく特にこの日は楽勝だった。ただ雨にたたられ、尾根上では強風にもあおられた。高山裏避難小屋では、早稲田大学の連中(どういう性質の集団なのかは不明)のテント(ダンロップ5・6天を3張り)がすでに設置済みだった。女性の数は定かでない(2名以上存在していたことは確かであるが)。しかし、間近で観察できた一人の女性のことをここで報告しないわけにはいかないだろう。

〔トイレにて〕

トイレをすませ、わたしはドアを開けた。とそのとき、一人の視線がわたしの全体をつつんだ。

「すいません」

はっきりした調子で、かのじよはそういい放った。

中にはトイレットペーパーがあるとはっきり分かるコンビニの袋を手にしたわたしの耳に言葉が浸透する。

「いいえ」

母音のつらなりが、もっともやわらかい旋律で鼻孔をとらえ、わたしのなかで有機的に反響した。みず色をした基調としたナイロン生地に、紺の二本線が腕に描かれてあるジャージの上着。右の胸にはなにかの固有名が二文字で書かれている。上着と揃いの紺のジャージが、かのじよの下半身の特徴を被い隠す。肩まで5センチある高校生のようなかのじよの黒髪……

「こんにちは」

はっきりとしつつも機械的な、かのじよの山でのおきまりの音声。しかし、もはや手遅れなのだ。わたしは返すことばをなくし、ただそこを立ち去るのみだった。

「なぜかのじよは謝ったのか」

煩悶とありえない郷愁とがひたすらに交錯していた。 おわり

宗像が、小屋でじゃがいもを4つ（それも大）を貰ってきた。

9/8 雨のため沈

9/9 曇り時々雨-晴れ

4:00 起床 5:20 発 9:20 荒川小屋 9:50 大聖寺平 11:55 赤石岳避難小屋 14:15 百間洞

不安定な天気ながらも、荒川小屋に着くあたりから日が零れてきた。大聖寺平までの登りは傾斜も緩く、景色もよい。小赤石から赤石までの尾根を歩くころから、雲行きが怪しくなり、赤石の頂上では雨となっていた。雷をともなっていたので、避難小屋で通り過ぎるまで休憩する。再出発後、赤石からの下りで大谷の唄。「今日のごはんはなーにかな♪」西井「マーボー春雨じゃ」大谷「高野豆腐もいれましようー♪」「えー、高野豆腐はやめましようよー」つつこむ宗像。松田無言。さて、アルペンガイドでは「快適」と紹介されていた百間洞は、曇っているせいか、取り上げるほどのものではない。景色がよいので、ドアを開け放して、歌をうたいながらトイレで大をしていたら、西井に呆れられた。

9/10 晴れのち曇り

4:00 起床 5:25 発 7:15 中盛丸岳 8:55 兎岳 11:15 聖岳 13:30 聖平

2ピッチ目に松田が腹痛となるが大事には至らず。中盛丸岳では南アの panoramagram を堪能することができた。ただ兎岳の耳がはっきりとせず議論となる。かの山をナキウサギとする暴論まで出て、大谷と宗像が互いの干支（大谷は丑、宗像は卯）をけなしあうという形で話は消散した。

9/11 晴れ

4:00 起床 5:20 発 7:20 上河内岳の肩 8:25 茶臼岳の肩 8:50 仁田岳分岐 10:20 易老岳 13:00 光岳

上河内岳の肩での休憩時、大谷が即興でヨーデルを唄うも響きを買収。
 茶臼岳の肩の休憩にて。大谷「そこ（茶臼小屋の分岐）でおりんー」宗像「テカリまで行かないと、南ア縦走したことにならないんですよー」大谷「テカリなんて行かなくてもいいじゃん」「なぜテカリに行く必要があるかー（浪曲調で）」宗像（キレテ）「そんなこというなら、おりていいですよ」
 伏線はあった。北岳での会話（その2）を受けての悶着である。大谷は冗談で言ったのだが、その度を越しており、実際にメンバーの感情を害した。また体調が良くなかったとはいえ、宗像が感情的になりすぎたことも指摘できる。結局、大谷が次の休憩時に謝り収まった。大谷の他者への配慮不足。宗像の感情コントロール。問題はハッキリしているのだから、これからの山行に生かせばよい。トレーニングや部会では現れない課題を鮮明にする意味において、本チャンの山行がパーティーの成長を促すことを再認識した。
 仁田岳分岐と易老岳との間で、宗像の友人・南山大の藤井君に会う。怒濤のように歩いてきた。ひとりで甲斐駒まで縦走とのこと。靴はスニーカーだった。

光小屋への登りで、大谷のキスリングの左背負いひもの留め金が壊れる。宗像が機転をきかせて上手い具合に修理する。さすがに、このキスリングの辞書に、次という文字はないだろう。事前のチェックの甘さを大谷は当然反省すべきである。

光小屋から光岳を往復する。テカリ岳の山頂は木々に囲まれてはいるものの、長かった山行ゆえに、感慨は大きい。明治大学山岳部の今年八月の記録が瓶詰めになって木に掛けてあった。明治のリーダー曰く、「……道をふみ固めてくれた登山者たちに感謝します」。うーん、同感。

小屋近くのテン場に戻り、ジャンケンをして宗像が水汲みに行くことになる。ジャガイモの入ったマーボー春雨が旨かった。

9/12 曇りのち曇りときどき晴のち雨

4:00 起床 5:15 発 7:35 畑薙大吊橋 16:15 寸又峽

起床から出発までの時間がかかりすぎるのは、全日程を通じての反省点である。光からの下り。西井がインターバルで猛ダッシュをかける。最終日+下り、がその方程式だ。松田も当然インターバル・ダッシュ。吊橋までの4時間コースを、2時間20分で下りきった。しかしここからは40kmの林道歩き。2〜3ピッチをピークにペースは落ちていく。うんざりした残り15km付

近で軽トラックをヒッチ。残 10km で降ろされるも、残 5km でふたたび拾ってもらふ。文明への深い感謝の念を抱きつつ、長い行程を終えた。

(文責・大谷)

17. 個人山行(岩)《谷川一ノ倉沢・衝立岩雲稜ルート》

宗像、太田(上智大)

9/24 曇り時々雨

5:25 一の倉沢出合BC発 6:40 取り付き 7:10 7:30 2人用テラス 9:30 BC

人工が得意でないと自称する太田と、人工は本チャンでほとんど使ったことのない宗像とで人工主体の雲稜ルートに登ることになった。

朝、どんよりと曇った中、出発。我々の他に3~4パーティーほどテールリッジに登っている。取り付きに着いたところで雨が降りだし、どうしようかとぐずぐずしていると、ソロのお兄さんがやって来て、さっさと取り付いてしまった。とりあえず取り付くことにしたが、2人用テラスに着いた所で再び降りだし、ソロは時間がかかるということもあり、下りることにする。太田は下りるときに「もう下りるのか」とか言われたそう。本人の前で言うか。

夜、一晩中電気を点滅させているパーティーがあり、心配した人が警察を呼んだらしく、僕らもいろいろと聴かれた。

9/25 晴れ時々曇り一時雨

5:05 発 6:35 取り付き 6:55 13:45 衝立の頭 14:15 17:30 BC

取り付きまで来ると、昨日点滅させていたパーティーが下りて来るところだった。後で分かったことだが、懸垂中に下りれなくなり、アブミの上で一晩過ごしたそう。ピトン一本打ち込んで太田トップで取り付く。第一ハングを越えるときにフィフィをハーネスにつけ忘れているのに気づき、えらい疲れた。3P目、太田、6~7m登り、トラバースしているときボルトが抜けて7~8m墜落。必死で止めると体が浮き、太田が右の方1m位下にぶらさがっていた。下の方で「おー」とか無責任な喚声があがっている。頭を打ったというが、傾斜が強いので外傷はなく、再び登ることにする。ボルトが抜け

たところはピトンやナツツなど総動員して登っていた。かなり、しんどかった。つぎのピッチはもろいところが多く、人工の所も僕にはそんなに甘くなかった。ボサテラスまで来ると一息でき、洞穴ハングを越えて人工のピッチは終わった。その後のピッチも楽勝と言えるほどのⅢ級とは言えないと思う。人工の後だから難しく感じたのかも知れないが、2ピッチで衝立の頭に着く。ゆっくりと休憩した後、下降に移る。途中で雨が降りだし、ロープを引くのにはえらい苦勞する。沢の下りは懸垂混じりで下降し、出合に戻ったときには暗くなっていた。何とかクリアできたがなかなかしんどかった。

(文責・宗像)

【フリートーク】

多分西井のレポートがまだ出ていないと怒っている宗像と松田へちよつとした言い訳とぼやきと反省。 西井薫

報告書に何か文章を書け、と宗像に言われたのは夏合宿終わってすぐだったように思う。生来、というよりもここ2、3年で顕在化してきたのだが、自分はどうしようもないほどギリギリ的人間らしくそう言われて予め書いておくということをしたことがない。面倒くさいことは後に回してしまい、今も現に昨日までの締め切りの文章をこうして書いている。昨日は昨日でゼミの先生に“まえのレポート発表はなつとらん”と言って怒られてしまった。山岳部の文章はゼミが終わった後にでも家に帰って書けばいいか、なんて思っていたのだが、ゼミの後に久しぶりみんなで飲もう、といわれるとずるずるといってしまい、飲み後に書けばいいか、と思いつつ、ビールジョッキ4杯、水割りダブルで3杯飲んでしまった。よし帰ろう、と思っているのに、駅で4年間会っていない高校時代の友達が来るという話を聞いて、結局我が家でみんなで飲み、ビール2缶空けてしまい、実は今、頭がガンガンしている。“こういうことじゃだめじゃのー”と思いつつも思うだけで実行が伴わないのもこういう人間にはよくあることである。ということで私は深く反省しているわけでありませう。ごめーん

【フリートークに代えて】

文章を書くのが苦手なので絵を書こうと思う。

(漫画入る)

実は絵を書くのも苦手である……。

コラム

《97年度上半期を振り返って》

この半年の間、この部の中にもそれなりの変化があった。ここでそれをいちいち並べようとは思わないし、取り立てて明るい話題が多いわけでもないの、つまらないだろう。そんな中で、僕もいくつか学習した。部の現状に不満をもち、それを変えようと口に出して言ったり、ノートに書き付けたところで、聞いてくれる人間がいなければ疲れるだけだ。いろいろ言い過ぎたことを、批判され、反省もするし、謝りもするが、だったらどうせいゆうんや。僕はそれほど善人ではないし、善人になろうとも思わない。

つまるところ、登山とは自己満足だと思う。それに対して、山岳部という組織がどのくらい役に立つことができるかだと思う。逆に言うとたたけば大きな音が出る組織ならおもしろい。みんなで一つのことに向かっていけるのなら一番いい。ということで、僕はとにかくやってみることにした。自信がないとか、できるわけがない、とかいうのはやる気がないからあたりまえ。口で説明するよりも、自分がやることで証拠を見せるのが手っ取り早い。自然外部の人間と行ったり、一人で行くことが多くなった。僕には山岳部を離れて一人で登る度胸は今のところないし、やりたいと思うことは、今の状態でもできる。大学山岳部といういれものの中で何ができるのかをいろいろやってみたい。別に、部のために地味な活動を繰り返すのはかまわない。ただ、そこに自分なりのおもしろさがなければ、つまらない。僕、全員がそういうおもしろさをもてる部になるように努力していくつもりだ。

新入部員として3年の松田と4年の大谷が入りました。ともあれ、うれしいことだ。入れ替わりに、2年の立木は休部しました。やれやれ。

7月に三つ峠にて事故を起こしてしまいました。現場の指導者として、責任は僕にあることは事実です。十分反省をして、今後、事故のない登山を実践することが、僕、並びに部の義務だと思っています。

問題の多い部だが、今に始まったことではないので、それを避けないで、おもしろい山登りをしよう。

リーダー：宗像

《ゲレンデ》

4/20 川又 宗像、古瀬 OB

6月のある週末 広沢寺 宗像、大谷、松田

6/29 越沢バットレス 宗像、引地 OB

8/2 日和田 宗像、立木、松田

9/24 湯河原幕岩 宗像、松田